

中央大学国際経営学部 企業訪問報告書

調査テーマ	日本アイ・ビー・エム株式会社の変遷と働き方の変化について
報告者	国際経営学部国際経営学科 1年 氏名: 蔣思音
調査日	2022年11月11日(金) 15:10 ~ 16:50
調査先	日本アイ・ビー・エム株式会社(以下、IBM) テクノロジー事業本部 IBM Power 事業部 事業開発部長 兼 IBM i 統括本部長 高木 泰成 様 人事 Employer Branding Manager 根本 亮 様
担当教員身分・氏名	野間口隆郎 教授
CVS 担当	小林礼人、築地玲奈
授業科目/学部企画名	訪問調査(「企業訪問」)
参加学生数(学年)	44名(1年生29名、2年生15名)
調査趣旨・目的	もともとコンピュータメーカーであった IBM が時代の移り変わりと共に、どのように変化していったか、また IBM で働く人が何を考え、どのように働いているかなどのお話を伺い、これからの時代に向けて、自身が非凡な存在になるために今からできることは何か考え、就業に向けた具体的なイメージや目標を持つ。
調査結果	<p>IBM への企業訪問は、コロナ禍により実際の訪問ではなく、中央大学多摩キャンパス Forest Gateway Chuo のホールに高木泰成様と根本亮様をお招きし、トークセッション形式により実施した。</p>  <p>高木様と根本様のトークセッションの様子</p> <p>冒頭お二人の略歴をご紹介いただき、IBM が時代の移り変わりと共にいかに企業変革し、社会に貢献してきたのかを伺った。</p> <p>IBM は、「コンサル」と「IT」を掛け合わせた事業を展開している。企業が自由に必要な IT 環境を選択し、構築できる現代のクラウド時代において、多種多様なテクノロジーの進化がお客様の購買パターンを変化させてきた。従って、完全分業で技術職や専門家がお客様ニーズに対応するオーダーメイド型のソリューションを提案していた時代から、そのソリューション提案力も変化してきた。現在、IBM は、「ハイブリッドクラウド&AI」時代のリーダーを目指している。</p>

IBM では、創立以来、ダイバーシティーを大事にしてきた。産休、育休を取得した社員に行ったアンケートによると、9割以上の社員が、「周囲の理解に助けられている」と回答した。「周囲の理解」は、子供の発熱等、突発的な理由で仕事を抜けざるを得ない社員の心理的負担の軽減に大きなインパクトをもたらしている。お話の中で印象的だったこととして、IBM から他社に転職した後、再び IBM に戻ってくる社員が存在することだった。これらのことから IBM の職場環境が、とても温かい雰囲気であることが感じ取れた。

また、IBM では GTO(Global Technology Outlook)という長期技術戦略を明確に定め、基礎研究内容も可能な限り、社内外に開示をしている。IBM 社員は、将来のテクノロジー動向や長期の視点に立った全社戦略をグローバル全体で共有することで、社員が向かうべき報告性を明確にしていることも社員のやりがい、モチベーションにつながっている。

最後にご講演いただいた高木様と根本様から、参加学生に対し、学び続け、それらの学びをアウトプットすること、また、海外市場の情報を得るために必要不可欠である英語を学ぶだけでなく、正しい日本語を習得することも重要であること、常にポジティブで挑戦し続ける心を持つことが大切である、というメッセージをいただいた。

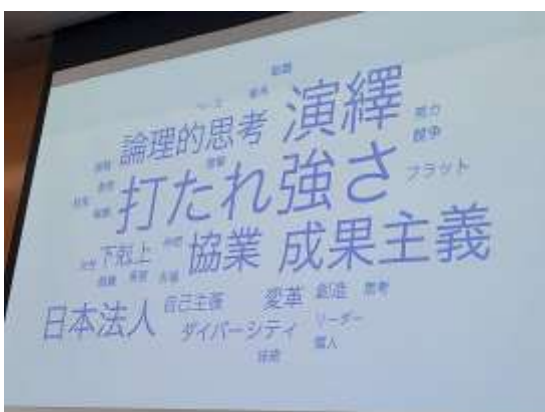
今回の訪問では、高木様と根本様の IBM での働きを通して培った経験を元に、社会の変遷にいかに対応していくか、社会に出るための心構えを学ぶことができた。IBM のように人を大切に育てるような温かい企業で働きたいと強く感じた。



IBM 高木様と根本様のトークセッションの様子



講演に聴き入る学生たち



高木様が 20 年働いてきたキーワード



記念撮影